

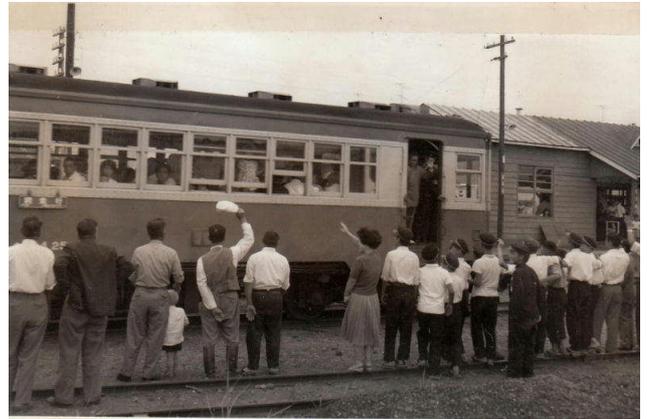
# あのときの常呂・写真館

VOL 5

(1966年)

## 昭和41年4月10日 湧網線に大型ジーゼルカー

- ▶ 4枚の写真は、国鉄の乗客サービス計画により、湧網線でも大型ジーゼルカーの全面運行が始まり、常呂駅で行われた祝賀式の様子です。昭和41年4月号の「広報とことろ」（概要）では、「この日、中湧別を12時5分に発車した大型ジーゼルカーが常呂駅に着く13時50分には、町長・町議会副議長・商工会長・区長など関係者約30人が出迎え、到着した乗務員に花束を贈呈しました。そして、プラットフォームに張られた五色のテープが町長によって切り落とされ、ジーゼルカーが発車していきましたが、引き続いてホームでは参会者全員によってお祝杯が交わされました」と伝えています。
- ▶ この大型ジーゼルカーの運行から遡ること10年前の昭和31年1月7日に、ジーゼルカーの小型版ともいべきレールバスが導入されています。
- \* 同じ日、土佐公民館のすぐ近くに土佐仮乗降場、そして常呂港仮乗降場が新設され、昭和47年2月8日にこの2つの仮乗降場は廃止されます。
- \* また、この年の3月には、北見共立駅が無人化され、貨物の取り扱いも廃止されます。





▶左の写真は、大型ジーゼルカー導入後、昭和42～43年頃の駅前ようです。

▶下は、昭和31年に設置された「常呂港仮乗降場」で列車を待つ光景です。「常呂港」の表示とレールバス、待合所が見えます。（年代は昭和35年頃）



▶右下2枚は、常呂駅の昭和45年度の収入が1億円を突破した記念として、昭和46年3月8日、常呂駅事務室内で町長や町民、駅員が見守る中、旭川鉄道管理局長がダルマに目を入れているようです。昭和46年3月の「広報ところ」は、「常呂駅では各種の団体旅行や農水産物、製材など国鉄の利用を積極的に町民に働きかけ」た結果で、「開駅以来初めての実績で、旭川鉄道管理局管内でも有数の伸びを示している」と伝えています。



▶常呂駅前で記念写真を撮った、昭和45年9月の敬老列車（ものすごい数の参加者！「行ってらっしゃい敬老列車」の横幕があります）こうした積み重ねが収入1億円につながっていったのでしょう。

